



笠岡大教会創立百十周年記念祭 祈願おぢばがえりを終えて

八月二十六日日本部月次祭終了後、東礼拝場には笠岡大教会関係のようぼく信者約二千名が、左肩に紺色のハンカチをつけ続々と集合しました。

十二時三十分、大教会長様の手に合わせて、拍手の音が神殿に響き渡ります。おつとめには青年会・女子青年二十五名が黄色のTシャツを着け、ポイント・ポイントに立ちあがっていました。

その一糸乱れぬ手振りに合わせて、参拝者全員が一手一つに創立百十周年記念祭祈願のおつとめを勇んでつとめることが出来ました。

おつとめの後、大教会長様はご挨拶で、三年千日の打ち出し以来今日までの丹精のお礼と、あと三ヶ月に迫った記念祭へ向かって最後の仕上げへの熱い思いを述べられ

ています。

思えば一昨年年頭会議で「論達を實踐し、をやの理を戴こう」との三年千日の活動方針を御発表頂きました。第一年目は実践項目「百万軒にをいがけ」を掲げ、皆様方のお力添えのもと大きく目標を超える御守護を頂いています。

更に昨年第二年目は「つとめに専心」「百万軒にをいがけ」「全教会での陽気ぐらし講座の開催」を目標に励みました。十一月二十一日大教会祭典日には、達成の喜びを胸に、八百余名の参拝者と共に十二下りてをどりを全員総立ちでつとめ、記念祭への決起を誓ったのでした。

本年は仕上げの年として「おさづけの取り次ぎ」「陽気ぐらし講座と百万軒にをいがけ」「一人のおぢばがえり」を合い言葉につとめて参りました。皆様方のお心寄せを頂き、今年の七月末日現在、おさづけの取り次ぎ四万二千七百二十四回、にをいがけ軒数六十五万四千五百七軒、おぢばがえり八千四十五名となっています。

一人のおぢばがえりにつきまては、今回の祈願おぢばがえりをもって完成の御守護を頂きまし

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311

笠岡大教会 創立110周年

三年千日スローガン

論達を實踐し、をやの理を戴こう

本年の実践項目

- 一、おさづけの取り次ぎ
- 一、陽気ぐらし講座と百万軒にをいがけ
- 一、一人のおぢばがえり



無事、一手一つにつとめ了え、満面笑みの奥様

た。子供おぢばがえりに引き続きの帰参で、大変な努力を頂きましたこと厚くお礼申し上げます。この喜びと勇み心を持って、残された二ヶ月、心定め達成に全力を尽くさせていただきたいものと思えます。そして十一月二十九日には大勢の参拝者を頂き、明るく勇んだ創立百十周年記念祭を迎えさせて頂きたく思いますので、どうぞ更なるお心寄せを賜りますようよろしくお願いいたしません。

祈願おぢばがえりに感激

明石市分教会長 杉原博之

西礼拝場で家族で参拝させて頂きました。真柱様の祭文奏上には誠に身の引き締まる思いで決意を新たにいたしました。

今回の月次祭は一二下り、神殿講話が終わった後、百十周年の意義深き盛会を願ってのお願いづとめがあるので、何だか、ワクワクした不思議な気持ちで、みかぐらうたを唱和させて頂きました。お願いづとめに「ワクワク」は、おかしいのですが、どうしてでしょう。私は、こんなことを思いました。「世界中の人間は皆な、おぢばで生まれた兄弟姉妹、その中に只今の西礼拝場は正に笠岡大教会百十周年記念祭の成功を願う道の兄弟姉妹の中の兄弟姉妹で埋まっている……。見知った先生方々の真剣な表情、笠岡の印のブルーのハンカチを肩に付けている方々、その思うところ純な素直な正に真実の皆様ばかり。ああ、心強いなあ、きつと親神様は、受け取って下さる。」との思い……。心躍るときめきの時。

ブルーのハンカチは祈りの色に思えます。また静かな決意の色。ブルーで埋められた神殿は祈りと決意の場。

「かさおか」「笠岡」の旗を持って案内をされる先生方、何くれと世話をやいている会長様方。皆々真剣な表情をされている。

どちらの大教会の皆様か、多数の団体の真剣な

お勤めが始まった。静かに私達の「時」を待つ。その時の高揚した気持ち、何とも言えない嬉しい心、静かな決意。

やつと心を解き放つ時間が来ました。「親神様に拝礼」合図をされる先生の誠に凛とした口調。無数の幾千の皆様のお勤めの祈り、声が一つに揃い解け合って結び合う。喜びと感激に涙が出そうになる。「ああ、有難いなあ」心からそう思う。

大教会長様の皆様をねぎらう言葉と、これからの実践活動の励ましを頂き、この素晴らしい行事に参加させて頂いた大きい喜びに浸らして頂きました。

「祈願おぢばがえり」の種の「麗しい実り」を心から信じて、精一杯力を尽くしたいと心から感じさせて頂きました。

待っていて下された教祖

久松分教会 喜多村 則子

笠岡大教会百十周年を迎えるにあたって、月次祭の後、ご巡教にこられた教会長様のお話で、大教会長様より百万軒にいがけが打ち出されたというお話をされました。パンフレットを配るだけなら私にも出来るだろう、やらせて頂こう、と、その時は思いましたが、時間が経つと、忙しい忙しいとすぐ我身勝手の心が湧いて実行に移せませんでした。忙しい中も時間をつくって配っておられる方、今年から月次祭には会社を休んでおつと

めをつとめる心定めをした信者さん、身上の中でもコツコツと配っておられる理の親である布教所長様の姿に心をうごかされました。

毎月の月次祭に参拝して、おつとめをして帰るだけでは教祖様に申し訳ない。今こそ私も心を定めて実行させていただかなくては、早速帰りに奥様にパンフレットをいただいで帰り、勇んで配らせて頂きました。ありがとうございますか、姉が教会に参拝していますとか、「私もお話は聞いているんだけどなかなか心がねえ。」と言われる方に出会った時は何か親しみを感じてうれしかったです。中には「天理教も何教もうちには要らん。」と言って受け取ってくれない人もいます。留守のお宅へは、「どうぞ読んで下さい。」と心の中で言っているように百十周年がすぎても頑張らせて頂こうと思います。

そして帰参当日、満員のバスの中は和やかな雰囲気、所長様のおいがけで初めておぢば帰りをされた身上の方も、体調をくずすことなく無事おぢばに着きました。教祖様が待っていて下されたのだと思えて胸があつくになりました。早速参拝し親神様にお礼を申し上げ教祖殿に向いました。磨きぬかれた廊下、ピカピカのトイレに身上の方も感動しておられました。教祖様にお礼とお願いを申し上げて頭を上げると、すぐ前で若い娘さんが、男の人におさづけを取り次いでいるのが目に入りました。私には出来ないなと思いました。改

めて、日々教祖様にお喜び頂ける通り方をしなければと思えました。夏休み中と言う事もあって礼拝場や境内には青年さんや子供達がいつぱいで頼もしく思えました。礼拝場を出ようとした時、よろづよ八首を歌いながら回廊拭をする人達に出会いました。三十数年前修養科生だった頃を思い出させてくれました。

祈願おぢばがえりも終えた今、残された三ヶ月を精いっぱい頑張らせていただきたいと思つていきます。



共々に参拝させていただきました

感無量のおつとめ

米府分教会 下島 千文

米府分教会の7月の月次祭で、「8月25日、26日の土日に、おぢばがえり団参がある」という話を伺って即、「これはぜひ、家族みんなで行かせてもらおう!」と思いました。

私の家は、妹が嫁いでは両親と私の三人暮らし。今回の祈願おぢばがえりへの参加は、日ごろいろいろと面倒を掛けている両親への恩返しになると、考えたのです。

「費用は私が持つから、みんなで行こうよ」というと、両親は大そう喜んでくれました。

三人が揃つての団参は、四年ぶりくらいでしょうか。両親は、久しぶりに訪れた天理の街に対して、以前とはずいぶんと趣が変わった印象を持つたようです。

私たち家族が思っていた、おぢばがえりの目的は「日ごろの感謝のため」でした。

両親とも、六十歳を過ぎててもなお元気に働いており、自分自身もまた事故や病氣も無く元気に通らせていただいている。こんな、ごく普通に暮らさせてもらっていることに對する親神様への感謝の気持ちを家族揃つて、そして米府に、笠岡につながるみんなと一緒に、おぢばかんろだいで伝えたい。そして、両親におぢばでの休日をゆつたりとした気持ちで過ごしてもらいたい。そんな気持ちがありました(後で、団参の話聞いた妹も「私

も行きたい！」と言っていたのですが、都合で参
加できなかったのは残念です。

そんなことから、26日の西礼拝場でのおねがい
づとめは無量でした。笠岡大教会につながるみ
んなが、大教会長様の手に合わせて一つになつて
のおつとめは壮観でした。

私は、今回の「祈願おぢばがえり」の機会を家
族と一緒に、そして道につながるたくさんの人と
迎えられることに、大きな感謝の念を抱きました。

この秋の笠岡大教会の大きな旬を家族ともども
に迎えられることを、楽しみにしています。

学生徒修養会 高校の部感想文

学修で得た宝物を生かして

神邊分教会 佐藤 夏代 (高2)

一回生で参加したので本当に何も分からなく不
安でいっぱいでした。朝はとも早く起きてきるの
がつかつたけど、だんだん慣れてきて、朝づと
めも一生懸命できました。

私はとても人みしりをしてしまうので、話す
き気を使ってしまつて体がしんどくなることがあ
りました。それで学校の救護室に3回も行って休

んだりさせてもらいました。その時に同じ班の友
達・カウンセラーさん・講師の先生、みんなが心
配してくれて優しい声をかけてくれたのです。と
ても嬉しかったです。みんなに感謝しています。

集団生活はとも苦手だけど、集団生活でしか
味わうことのできないものもありました。食事の
時は、周りの人達のはしを配ったりお茶を入れた
り自ら進んでできました。協力することの大切さ
を実感しました。人のためという心が自分も周
りの人も気持ちよくなるんだなと思いました。

カウンセラーさん・班のみんな・講師の先生、
みんなとても優しくしてもらつて感動しっぱなし
でした。
学修でいっぱい宝物をみつめました。

これから家に帰つても、学修で得た大切なこと
を忘れずにいたいです。

そして、つらいコトがあつても班のみんなたち
を思い出してがんばりたいです。

ありがとうございます。

前会長さん あっがー！

國須分教会 河田 裕也 (高2)

最初寮にいた時は、すごく帰りがつたんです。
でも学校も始まり日がたつにつれて友達もたくさ
んで、楽しくなってきました。毎朝4:30に起きて
眠い目をこすりながら通つた朝づとめ、でも、一
日も欠かすことなく頑張れたのもカウンセラーの

先生・友達がいたからできたのだと思います。

学校では少し寝てしまつたけど、一生懸命僕な
りに頑張りました。

僕らの班は最初から男子と女子の間が深く、そ
の事での話し合いもして何とか仲良くなりました。

二回生のメイン行事と言えはなんととっても「先
人の道」十三峠越えだと思えます。僕は最初は正
直言つて行くのが辛くしんどかったです。でも僕
の所属する教会の初代会長さんが何度も行きた
がつてた十三峠……それなのに越える事なく昨年
出直されました。僕はその会長さんの気持ちを
思うと辛いとかしんどいとかは言つてはいられな
い。僕が会長さんの分まで頑張るんやと思つて歩
く決意をしました。

僕は会長さんを背中にお
ぶつた気持ちで十三峠越えを
させていただきました。そし
て、ちようど頂点についた時
にみんなでもろづよ八首奉唱をしました。

それから平群総合スポーツセンターで夕食をす
ませて、女子はバスでおぢばへ、男子は班ごとに
歩いておぢばにかえらせてもらいました。帰る途
中すごく足がいたくなり歩くのもだるくなりました。
でもそこで前会長さんの事が思い浮かび僕の
足は止まるコトなく、自然に体がおぢばへと引き
よせられました。だから僕にとつては班の人だけ
でなく前会長さんも一緒ににおぢばに着いた気がし
ます。



そして毎日寝る前に行われる夜の挨拶では、おふでさきを拝読したり、よろづよ八首八種をおどつたりつたりして一日のしめくくりをしました

退寮式ではこみあげるものがあり、涙をふきながら先生の話の聞ききました。やはり一回生とはちがうものがありました。

終わりにになりましたが、カウンセラーさんのお言葉の中に「バ力になりなされや」と言うコトを言われ、最初は、意味があまり理解できなかつたけど、この学修終えさしていただいてバ力になれば人より低くなれる、低くなれば自分の思いや気持ちのもちかたもかわつてくると思いました。

僕は普段からおもっていることは人をかえようと思えば自分がかわらないといけないと言うコトです。僕はこのコトは「バ力になりなされや」と同じ意味じゃないかと思わさせていたただいています。

この学修で学んだコトを親や兄弟・友達にも話そうとおもっています。学修参加させてくれた両親にありがとうの気持ちでいっぱいです。

ありがとう 友達！ ありがとう 先生！ ありがとう 学修！
そして今は亡き前会長さん ありがとう……



教祖あじがひんげつまつた

川島郷分教会 香 取 満 彦 (高一)

今回あまり乗り気で参加させていただいたわけではありませんでした。

こどもおちばがえりから帰つてすぐであり、学校の予定がつんでいたり、時間的にかなりキツイ状況でなれば強制的に参加させられました。が、開講してすぐ聞いた言葉が「教祖が手を取つて引き寄せてくれたのだ。偶然かと思うかも知れないが、この出来上がった班は、班員達の姿を見てこうすればよくなる、こうすれば変わると教えてくれるためのものなのかも知れない。」といった意味のものでした。この言葉を聞いて僕は、「確かにそれはうなずける。が、本当にそうなのか」と驚きながらもうたぐつていました。「それなら自分で確かめさせて頂こう。」と思い、少しやる気を出して、学修に臨みました。

コミュニケーションをとるまでに時間のかかる僕が、班員達を見て、一日目を除き、昔からの友人のように感じました。目を追うごとに、僕の無愛想もなくなつてゆき、後半では、他愛のない会話をすると、僕にしてみれば快拳を成し上げることが出来ました。

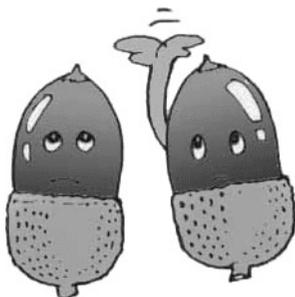
また、友人だけでなく、カウンセラー・講師も素晴らしい方々でした。講師の先生は通常のレクチャーのみならず親身になつて話を聞いて下さり、個々がかかえている問題の解決法を教えてくださいました。

した。もちろん僕もお世話になり、実際自分が気づきもしなかつたことをピタリと言われ、心の黒々としたものが消えたように感じました。

先生も若いころ大変苦労なされ、レクチャー中にその話をして下さいました。苦労した人は、良い道・悪い道のどちらかに分かれ、良い道に進んだ人はきつと立派な人間になると思われされました。レクチャーなどは大変興味深く、お道の理解を深めることができました。クラスミーティングも楽しめながらクラスメートの相互理解が行えるという濃い内容のもので深く感謝しています。

そしてカウンセラーも、日々そばにいて下さり、僕らのことに身を砕き、お世話になりました。面白いネタも豊富にもつておられ、笑いが多くあつたと覚えています。最後のあいさつのとき、泣いておられるのを見て、胸が熱く感じました。今ではあまりない熱血でした。

結局、始めの方の情けない考えを打ち砕かれ、あの言葉が真実として考えられるようになりました。素晴らしいカウンセラー・講師の先生、そして友人。彼らに会わせていただけたことを教祖に感謝するとともに、何かが変わつた自身も今後を前向の姿勢で進みたいと思います。



天理教が大好きになった

権島分教会 岩崎道理 (高一)

ぼくは、天理教が大嫌いでした。部活の試合があっても月次祭で、出場できなくなったりしてたからです。でも、父にこの学修に参加したらいいんじゃないか、と言われてしぶしぶ参加しました。寮に行ったら、みんな、最初は何も話さなかったけど、5分ぐらいしたらみんなテンションが上がって、1日でみんな仲よくなりました。きつと、ぼく達が1番最初に仲よくなったと思います。それから、いろんな行事を通してぼくは天理教が大好きになりました。

教員とおやさと講習会を受講して

そのものからわかじくれ

伯仙分教会長 川上道美

去る八月二十六日、本部月次祭後の西礼拝場に於いて、笠岡大教会創立百十周年祈願おつとめに続いて二十八日より三日間、教会長おやさと講習会を受講させて頂きました。

会場は熱気に溢れんばかりの中、三講師の方々は体験をもとお話下さいました。

第一講は、信じて通ることに勇み心がわいて来ると言うこと。第二講は、幼ない頃、母とはなれて暮らしていたが、いつも教祖が側にいて下さると思いきびしい思いはしなかった、自分から教祖に近づいていくのだと。第三講は、教祖の存命の理は道の命である、道は末代と。今までも何度かお聞きした話もなにか深い重みを感じました。ビデオ・シンポジウム・練り合いでは二十代から八十代の男女の教会長さんのなやみや失敗談それ等についていろいろ答弁をしい時間のためのも忘れる程、有意義な練り合いでした。

一人の教会長さんの話で、おちばへ参拝の団体募集に歩いていてある家に入ったら大勢の人が集まっておられ、そこは創価学会の家であった。天理教ですがと募集のチラシを出す追返され又何度か訪ねると同じであった。何年かたつて募集に行く、「出てやるが条件がある。天理教の話はするな」とのことであった。その後、団体に出られる様になり、先方から天理教の話が聞きたいと訪ねてこられたとのこと。根気よく通われたものだと感じ、自分のいたらなさを痛感しました。

最後に、真柱様より、「そのものからわかじくれ」とのお言葉を頂戴し、このお言葉をいっその胸に修め、おかけ下さる親心のおこたえ出来る様、勇み心で教会内容の充実にと、笠岡大教会百十周年に向つてあます三ヶ月をがんばり、あとで意義ある教会長講習であったなあと考える時が来ることを願います。



心の通ひ路

金浦分教会長 西江昌直

先般の教会長親里講習会で、私は5月中旬、第8次を受講させて頂きましたが、それに先立ち、小生の幼なじみであり、悪友でもある某教会長の車椅子を押して、一緒に受講するように云われ、お引受けしたものの、果して三日間のお世話どりが出来るかどうか、いささか不安であった。

と云うのは車椅子で、昇殿参拝した事など一度も無かつたし、段差の所では、向きを変えて引張らないと前につんのめつてしまふし、じやり道でどうか等、余計な先案じをしていたが、いざ始めてみると体力の無い私に代つて、若い教会長さんが押して下さったり、会場と詰所との往き来に某教会長さんが快く運転して下さいたりで、諸先生方の御陰で無事に三日間を了える事が出来ました。

昨今、TVや新聞でバリアフリーという言葉を見聞き致しますが、最近の本部の神殿廻りも教内諸施設に至るまで、昔に較べると全ゆる面で参拝し易くなっているのが本心に有難く思います。振り返つて私の天高二部の頃、三島町の或る先生のお宅に、約3年半、住込でお世話になって居



ました。その先生は本部准員で、本部の雅楽部長という要職に就いて居られましたが、中風と下半身不随という御生活上で大変不自由な生活をして居られました。先生のお立場の関係

で、本部の著名な先生方が頻繁に出入りされるので、お顔とお名前を憶えるだけでも大変でした。天中時代、詰所で割とのんびりと過ごして来た私にとって、急激な環境の変化には、ついてゆくのがやっとでした。薪割り、風呂焚き、風呂掃除、各部屋の掃除：等は何とか、こなしましたが、苦手だったのは茶道具、雅楽の修理道具、修理技術、又、定期的に行われる俳句の会、リヤカーを押しての遠出、それも南は三昧田、大和神社、北は櫻本の和爾神社、一番大変だったのが毎月26日、月次祭に雅楽演奏に赴かれる時、現在のように、西側にスロープはありません、リヤカーの右車輪を石段の右端の急な斜面に乗せ押し上げて、境内地へ入ってからの、又、大変。リヤカーを目ざとく見つけた、境内掛が、すつとんで来て、私達と押し問答の末、事態を了解して手伝ってくれる人も居れば、渋々納得して、そのまま去ってゆく人も居たりして反応は、様々でした。しかし、匂々の忙がしい時には中央大・惠愛分の板橋先輩が天理

大生としての学業は、さて置き、必ず駆けつけて下さり助けて下さいました。又、夕刻、登校すれば兵神大系の親友、井上君が私の悩みを聞いてくれました。良き先輩、良き友人に恵まれて苦しかったトンネルを抜け出す事が出来ました。さて記念祭まであと2ヶ月余り、昨年、不眠症で修養科を出た信者さんが、何とか職場復帰を果たしたのですが、症状が一進一退を繰り返していて申し訳ない次第です。私が真の心のバリアフリーを目指して行動しない限り、御守護頂けないと思っ

て日々頑張ります。そんな私が約7年間勤めていた会社を辞めたのは今年の5月の半ばの事でした。私は会社での人間関係によるストレスから、人に対して優しさをもって接する事が出来なくなり、それどころか嫌な事があればそれを顔や態度に表す様な自分の事しか考えられない高慢な性格になってしまつて、そんな自分を変えたい改めたいと思つていたのでした。しかし会社を辞めたからといって、新しい所で働いたからといって、周りの環境を変えても自分自身が変わらなければ、どこに行っても同じなんじゃないかと親に言われた時に、今まで天理教が嫌い、ましてや修養科なんて思つていた私が、そういえば笠岡では3ヶ月ごとの入学になつている修養科が次は2週間後だなあと、ふと私の気持ちの中に表れて、今、行かなければ絶対に後悔するだろうという思いで決意しました。

修養科生の声

なぜ修養科へ行ったのか

海松ヶ岡分教会 森本 三千代

私が何故修養科へ行ったのか。

多分、私の事を良く知っていることや親戚達は私が修養科生となったことを驚いていたと思います。何故なら私は随分前から天理教があまり好きではなく何年も前から教会へ参拝することもなければ用木であることの自覚も全く無い生活をしていたからでした。

修養科の3ヶ月は、真夏の厳しさに子供おぢばがえりも加わり大変忙しく、本当にきつかったけど終わってみるとあつという間の3ヶ月でした。毎日のひのきしんの中で今まで悩んでた事もすっかり忘れて充実した3ヶ月だったと思います。おぢばに来る前の私と今の私がどう成長したのか自分では分かりません。だけど天理教が嫌いだった少し前の私ではないという事だけは確かだし、今までの高慢な自分を変えるきっかけにはなつた実りある修養科生活だったと思います。ありがとうございます。

婦人会
委員部長後継者
講習会

八月二十一日夕方から翌二十二日昼まで、委員部長後継者講習会が催されました。折から台風一号の接近で荒れ模様様の天候でした。

支部長様のお話をきかせていただき、夜は支部長様を囲んでの練り合いをしました。後継者としての自覚の確認をすると共に、日々の教会での過ごし方について話し合いをしました。

翌日は、ひのきしんの後、大教会長様よりの「親の声に素直に応え、実行することが、将来の理づくりになる一番大切なことだ」というお話を、心に治めて終わりました。
参加人数は十八名でした。

大教会だより

◎第七二期修養科修了者

立教164年8月27日修了
笠岡 安斉 和美

◎第七二期修養科

自 立教164年9月1日
至 立教164年11月27日

*教養掛

三ヶ月間 森本忠平

一ヶ月目 三島順教
(葦沼分教会長)

二ヶ月目 枝廣隆文
(東福山分教会長)

三ヶ月目 掛谷富子
(坪生分教会長)

*志願者

福山	福山	福山	福山	眞府	龜田山	稲瀬	福輝	福山	福山	稲倉
池田豊	岡本宏	吉川美幸	竹内知	高田一弘	池田操	藤田妙子	坪井園美	渡邊和子		

西村	笠尋	出雲	海松ケ岡
藤本晴司	三嶋好美	若槻好美	森本三千代

直会のこと

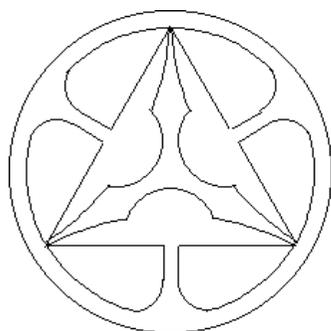
毎月、月次祭の後の直会は、ねりあいの場・親睦の場として、なくてはならないひと時のことと思います。しかし教会の台所では、前日より婦人会が献立の智慧を絞って大変なことは、どの教会も同じではないでしょうか。

そうした中、我が教会の自慢料理、アイディア料理があれば教えてください。電話、FAX、原稿、口頭等で、かさおか編集部までぜひお知らせ下さい。

第77回 天理教青年会総会

- 式典 10月27日(土) 午前10時
本部中庭
- 前夜祭 10月26日(金) タづとめ後
東西泉水プール前広場
笠岡分会からも模擬店に出店します(肉うどん)

笠岡大教会
創立110周年記念祭
立教164年11月29日(木)



9:00 開扉・献饌
10:00 祭典開始
真柱様おことば
14:00 余興・模擬店

第22回 女子青年大会

— 帰ろう ちばへ おやすとへ —

立教164年11月3日(祝)

式典 10:00 本部中庭
記念行事 13:00~15:00 天理大学杣之内第一体育館
ほっ!とTIME (和太鼓・ダンス) 感話 お話し
*記念行事後、笠岡詰所でお楽しみ行事があります。

笠岡女子青年では、下記の予定でバスを出します。ご利用下さい。

11月2日 19:30 集合 20:00 出発
11月3日 16:30 詰所出発予定
費用 5,000円(お申し込みは、各委員部へ)

八月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎しんで申し上げます

親神様には深く果てしない親心によります十全の御守護のまに、日々は結構に恙なくお連れ下さいまして誠に有難うございます。加えて「わかるよふむねのうちよりしやんせよ人たすけたらわがみたすかる」と単なる現世利益に止まらず末代に亘って真実にたすかる人だすけの道としてこの道をおつけ下され私共をお引き寄せ下さいました事は誠に有難く勿体ない極みでございます。私共は日々朝夕に御礼申し上げると共に御恩報じを思い念じ真にたすかる道を求めてたすけ一条に邁進させて頂いております。その中に今日の吉日はお許し下された御祭日でございますので只今からおつとめ奉仕者一同心を一つに睦び合せて明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめて八月の月次祭を執り行わせて頂きます。

御前には台風の影響によります雨風の強い中をもいとわず寄り集いました道の子供達が相共にお歌に唱和し日頃の御高恩に改めて御礼申し上げる真実の状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

さて今年も子供おぢば帰りや学生生徒修養会等を通じて大勢の子供達がおぢばに帰らせて頂きましたが事故怪我等が無く結構にお連れ通り下されたばかりでなく親の息をかけて下さり誠に有難うございました。この上は道の後継者に育つようしつかりと丹精させて頂く所存でございます。又今月二十六日の本部月次祭には笠岡に繋がる一同が揃って参拝をさせて頂き十一月二十九日に行う笠岡創立百十周年記念祭が無事滞りなく執り行われ神人和楽の一時を味わえるよう祈願のおぢばがえりとさせて頂く所存でございます。加えて記念祭に向け特に九月はにをいがけ強調月とお打ち出し頂いておりますのでいよいよ実践項目の仕上げの実動に心を奮い起こし取り掛からせて頂く覚悟でございます。

何卒親神様には諭達第一号に込められた全よふぶく実動の親心に添い旬の御用として一手一つに歩む皆の真実誠の心をお受け取り下さいまして万たすけの上に自由の御守護を賜りましてお互いの実動を称え合い喜び合える記念祭を迎えさせて頂けますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます。

ふたこと みこと

我教会で大教会
百十周年三年千日
のスローガンや実
践項目を流しても、

なかなか心が一つにそろわない。充実感なく日は過ぎるばかり。そこでこの問題に対して色々思索を重ねて一つの解答を得た。「諭達を実践し、をやの理を戴こう」とは言い換れば「親の言う事聞いて、人をたすけたい心になって人々がたすかかってゆく」守護の理を頂こう」と。その実践項目としては例えば幼稚だが、ちようど子供が親に言われるまま、茶碗洗い、玄関掃除、肩叩き等すると親はその出来具合よりも素直に実行する心を喜んでくれるものである。親神様、教祖の思召を真柱様が諭達で述べられ、それを受けて大教会長様がスローガンと実践項目を発表され、直轄の会長様がそれを部内へ流され、逐一その実動を報告している事が信仰の遠心力と求心力になっている。我教会の欠けていた特に大切な点はすぐの上級に対して親子回らんが築けていなかった点、大いに反省するところだ。この事がクリア出来れば教会内の心が一つにそろってくると思う。我教会の心揃う妙薬は記念祭目ざして否、生涯かけて竜頭である会長の求心力とそうして上級との親子回らんの絆の太さが、をやの理を戴けるパロメーターと氣付いた。

もうすぐ採点(祭典)が始まる時期だが、あなたは、この解答に対してどう採点してくれる？